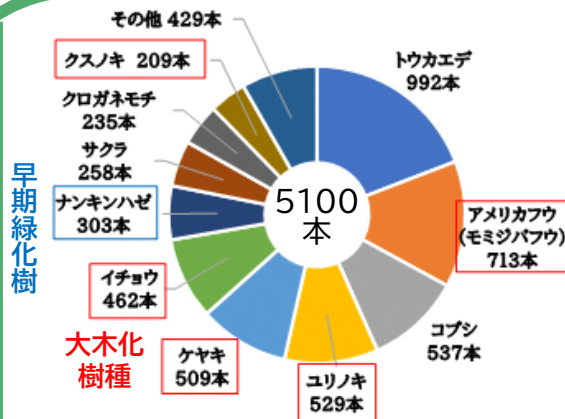


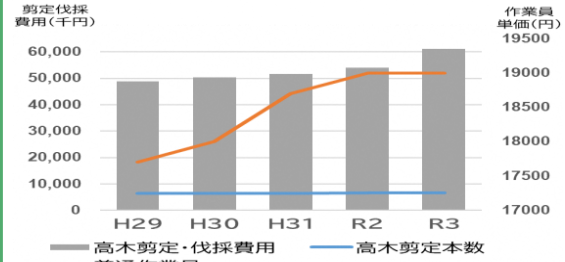
枚方市街路樹維持管理方針 概要版

枚方市の街路樹は、香里ヶ丘団地のけやき通りに代表されるように植栽後40年以上が経過している木々が増加し、大木化・老朽化が進行しています。一方、高齢化の急速な進行により急がれる歩道等のバリアフリー化、台風等自然災害の激甚化・頻発化による倒木等の発生、街路樹に対する市民意識の多様化など、街路樹を取り巻く環境も大きく変化しています。このような変化に伴う様々な課題に対応し、安全で快適な道路空間を維持・形成するとともに、市民に親しまれる枚方市にふさわしい緑豊かな道路の景観形成をめざして、「枚方市街路樹維持管理方針」を策定します（令和6年3月策定予定）。

現状と課題



緑量を増やすことを重視してきたため、大木化する樹種、早く大きくなる樹種（早期緑化樹）が多い



人件費の高騰や樹木の成長により、剪定費用が年々増加

① 樹木の大木化と高齢化の急速な進行

- 【課題】
- 高齢化の進行
 - 根上がり
 - 狭小な歩道への植栽
 - ➔ バリアフリーの重要性の高まり・通行のしづらさ
 - 信号や交差点等の視距・視認の妨げ
 - ➔ 事故等の恐れ・通行のしづらさ



② 自然災害等によるリスクの増大

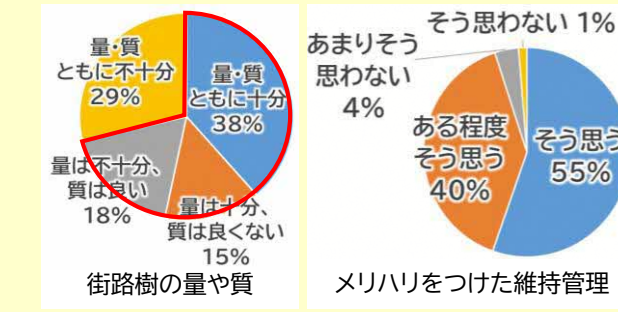
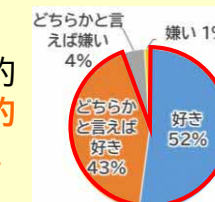
- 【課題】
- 樹木の樹勢劣化・空洞化
 - 大きすぎる樹冠・密植した並木
 - 大木化による落枝
 - 小さすぎる植樹・切られた根
 - 害虫
 - ➔ 強風等による倒木事故等のおそれ
 - 支障物（電線等）を避けた強剪定
 - ➔ 停電等のおそれ、樹勢の劣化



事故等を予防し、通行しやすい道路空間が必要

③ 市民意識の多様化

- 市民アンケート結果、
- ほとんどが街路樹に好意的
 - みどりの量や質について約7割が量もしくは質に満足と回答
 - 剪定時期や剪定方法等については路線により希望が異なることがわかった
 - 市民アンケートではメリハリをつけた維持管理に賛成が95%



地域要望を取り入れつつ都市魅力を高めることが必要

④ 市民の参加意識の向上

ゴミ拾い	49.2%	1,027人
落葉清掃	32.2%	673人
草刈り(街路樹の周囲など)	0.0%	238人
草花の維持管理	5.9%	124人
夏季の街路樹への水やり	5.3%	111人
協力できるものはない	12.7%	265人
わからない	29.2%	611人
その他	1.2%	25人

協力できるボランティア活動についての市民アンケートでは、「協力できるものはない」「わからない」は全体の42%。半数以上が協力できると回答

○ 半数弱がゴミ拾い、約3割が落葉清掃と回答、「一人でもできる」「時間がなくてもできる」等の理由が多かった

地域住民等の協力を得ながら育てることが必要

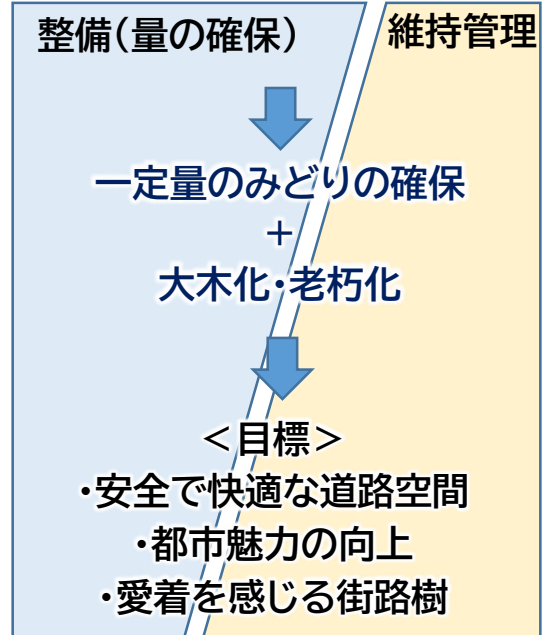
《これまでの取組み(方針)と現状》

- みどりの量の確保
- ➔ 一定量を確保済
 - ・ 高木約5100本
 - ・ 量が十分:53% (アンケート調査結果)
 - ➔ 街路樹の大木化や老朽化が進行

《これからの取組み(方針)》

- 「みどりのストック」を活用
- ➔ 街路樹の様々な効果を発現し、多様なニーズや状況に対応

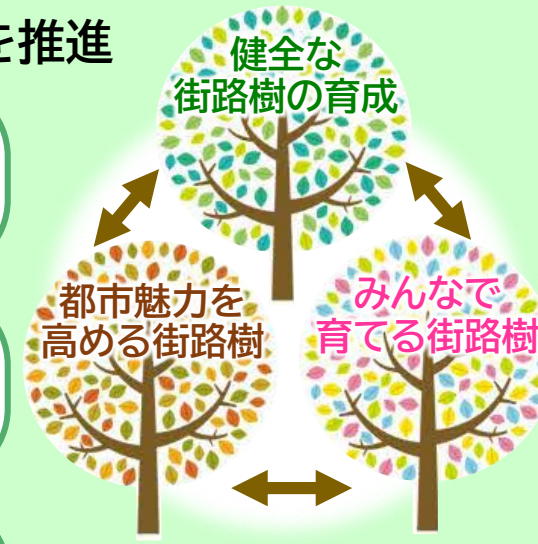
これまで(みどりの量の確保に重点)



これから(様々な効果発現に重点)

3つの基本方針に沿ってより効率的・効果的な維持管理を推進

- 維持管理方針
- (1) 健全な街路樹の育成**
 - 適正な維持管理や点検
 - 更新・撤去等の再整備
 - ➔ 安全で快適な道路空間を確保
 - (2) 都市魅力を高める街路樹の育成**
 - 地域要望を取り入れた維持管理
 - 良好な景観を保つ
 - ➔ 都市魅力の更なる向上を図る
 - (3) みんなで育てる街路樹**
 - 地域住民や事業者との協働
 - 協働及び参加のための仕組みづくり
 - ➔ 愛着を感じる街路樹・道路空間づくり



それぞれ相乗効果を発揮し、効率的・効果的な維持管理を推進

方針の転換



枚方市街路樹維持管理方針 概要版



3つの基本方針を進めていくための主な取り組み

①地域要望を取り入れた維持管理

健全 魅力 みんな

- ★歩道空間に合わせた適切な剪定管理の実施
- ★必要に応じて路線ごとに地域住民対象のアンケートを実施、剪定時期等について地域要望を把握

路線毎に管理シートを作成

- 歩道空間に合わせて目標樹高・枝張り等を設定

●剪定方針を検討

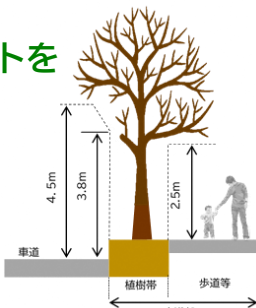
- ①現状維持
 - ②樹冠縮小
 - ③樹冠拡大
- 数年かけて目標の大きさに剪定(その後は現状維持)

●剪定時期を設定

- 落葉前(秋) ○落葉後(冬) など

必要な路線で実施

- 枝抜き剪定:落枝の予防(主にケヤキ)
- 樹高抑制:倒木の予防等



街路樹管理シート(案)

路線名	〇〇線	区間	△△	〇〇小前
樹種	ケヤキ	口開形	口開形	口開形
樹高	4.5m	目標樹高	3.8m	2.5m
剪定時期	落葉後	目標剪定時期	落葉後	落葉後
歩道有効幅員	2.5m	目標歩道有効幅員	2.5m	2.5m

歩車の安全な通行のため、建築限界を確保した樹形で管理する

②事故予防に重点をおいた点検

健全 魅力 みんな

- ★日常点検による倒木事故等の予防
- ★できるだけ多くの人々の目で危険木を把握

●点検シートを活用した日常点検(点検内容)

- ①倒木の危険性の有無
揺らぎ、開口空洞、キノコ、亀裂等
 - ②樹勢・樹形状況
 - ③通行障害の有無、視認性の確認
 - ④その他(病害虫、支柱等)
- ※剪定業務の受託業者からの報告を活用して実施



揺らぎの確認

●パトロール時等に車内から枯れ枝の有無等を点検

●ひらレポ(危険箇所等の通報)制度を活用し、枯木やキノコの発生等について市民に情報提供をしてもらう

③シンボル路線における良好な景観を保つ維持管理

魅力

- ★良好な景観を保つ維持管理
- ★計画的な植え替え

●市民アンケートの結果より、良好な景観を形成し、親しまれている上位4路線を「シンボル路線」に位置づけ

- ①けやき通り
- ②さくら通り
- ③いちよう通り
- ④とうかえでの道



けやき通り

●樹種の特徴を活かした樹形や大きさによる剪定管理など、良好な景観を保つ維持管理を行う

●シンボル路線については一斉更新による緑量低下や景観悪化を防ぐため、計画的に複数年度にわたる植え替えを行っていく(原則同じ樹種での更新)

④安全で快適な道路空間のための再整備

健全 魅力 みんな

- ★事故を予防し、通行のしやすさ確保に重点を置いた再整備
- ★生育空間を確保し、健全な樹木を育成

●樹種更新(高木→高木、高木→低木等)

老朽化や大木化している路線は歩道改修時に地域ニーズを把握したうえで歩道空間に合わせて更新樹種や歩道の状況により根上りを防止のための植栽基盤についても検討

●歩道幅員の確保

車いす使用者がいつでもすれ違える幅員2m以上(最小1m以上)の確保が基本(狭小歩道に植栽されている場合は地域ニーズを確認し、存置を決める)

●倒木防止

法面や擁壁天端の高木かつ点検結果に異状がある場合等は、倒木予防のために撤去

●見通しの確保

交差点・横断歩道付近5m以内、標識等の付近3m以内、車両乗入口1m以内は植栽しない

●樹木の植栽間隔の見直し(間引き)

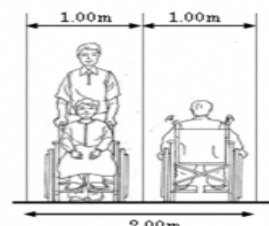
樹冠が重なると枯れ枝が発生しやすくなるため、状況により間引きを実施し、残した樹木を育成する

●生育空間の確保できない植栽帯

植栽帯が民有地に隣接しているなど、適切な生育空間が確保できない場合は地域ニーズを確認し、低木や草花への更新等を検討

●景観向上効果が低い箇所

隣接地が公園や山間部等で街路樹の景観向上効果等が低い箇所は効果を確認



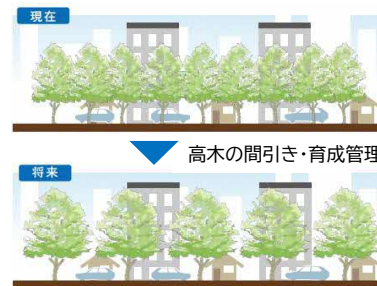
狭小な歩道への植栽



照明灯付近の植栽



民有地に隣接した植栽



高木の間引き・育成管理
残した樹木の育成により、緑量は変わらない

⑤地域住民や事業者が参加しやすい仕組みづくり

みんな

★地域活動・アダプトプログラムの推進・発展

●地域活動・アダプトプログラムのPR

- ・市民アンケートでは協力できるボランティア設問について「どこで活動をしているか知らない」という声も散見された
- ➡地域活動・アダプトプログラムについてより多くの市民に知ってもらうために広報やSNS等でのPRを行う

●地域活動・アダプトプログラムの仕組み検討

- ・市民アンケートではゴミ清掃や落葉清掃について「一人でもできる」等の回答が多かった一方、「街路樹の落ち葉ゴミを出すと自宅の落ち葉ゴミが出せない」という意見もあった
- ➡地域清掃・アダプトプログラムの参加方法やゴミ収集について、より参加してもらいやすい仕組みについて検討していく

【現行制度】

- ・5名以上の団体で登録
- ・1週間前までのゴミ収集依頼 等